

「安心して遊んで」福島の子を招待

2012年03月31日



焼き上がったアップルパイを、おいしそうにほお張る福島の小学生ら＝高山市久々野町久々野

◆NPOなど、高山へ5泊6日

東日本大震災と福島第一原発事故で被災した福島の児童37人が30日、高山市久々野町の果樹園「もだに農園」を訪れた。放射能の影響から解放され、山のおいしい空気を胸いっぱい吸い込んで、笑顔と歓声をはじめた。

リンゴの木から切り落とした枝を集める作業を手伝ったり、アップルパイづくりを楽しんだりした。

「落ち葉には放射能が多いから、学校では木にはロープが張られて近づけない。外出は必ずマスクをするけど苦しい」。福島県いわき市から参加した柴田桃佳さん(11)は「いつもはできないことを、たくさんしたい」と目を輝かせた。

同市の渡辺真由さん(12)は「自然の中で思い切り空気が吸えてすっきりする。マスクはもういや」。同県石川町の岡部聡人君(8)は「おいしいアップルパイができたか楽しみ」。

せめて長期休暇には外で思い切り遊んでもらおうと、全国のNPOなどで組織する実行委員会が主催する「ふくしまキッズ」の一環。この春休みは高山や北海道など全国4カ所で約40人ずつを受け入れている。

参加者には震災で肉親を失ったり、県外で避難生活をしたりした子もいる。実行委に参加するNPO教育支援協会東海の西尾真由美専務理事(52)は「震災の苦しみに加え、放射能でも相当大きなストレスを感じている。ここでは安心して遊んでほしい」と話した。

滞在は4月3日までの5泊6日。東海地方の児童12人も一緒に参加している。垂井町の彦坂郁佳さん(9)は「一緒にお風呂に入って楽しかった。福島の友達の顔を絵に描いて贈ってみたい」。

位山のハイキングや地元の児童との意見交換会などもする予定だ。(豊平森)